（修正版）地震調査研究から防災対応までの流れと今後の課題　俯瞰図

資料　新総レ9－（4）

○○○…主な課題

…地震本部が（一部）実施しているもの

…他機関が実施しているもの

観測網

地震・津波

・陸域の基盤観測網
・海底地震・津波観測網（S-net、DONET1,2）
南海トラフ西、日本海　等

地殻変動

・GEONET　・InSAR
・海底地殻変動
空間能、時間能の向上

調査

内陸での調査

・活断層調査

海域での調査

・南海トラフPJ、日本海PJ

文献学的な調査

不足している新しいデータの取得
・三次元震源断層
・海域古地震学的調査
・文献の組織的調査　等

標準モデルの開発

・海域地震の発生モデル
・内陸地震の発生モデル
・スラブ内地震の発生モデル
・海域巨大地震と内陸地震の相互作用モデル

長期評価での活用方策の検討

地盤情報の整理

範囲の拡大、精度の向上、半自動的に収集される仕組み

地震に関するハザード情報

即時予測

・緊急地震速報の高度化　精度向上
・津波警報等の高度化　精度向上
津波即時予測の全国展開
長周期地震動の即時予測、精度向上

将来の地震によるハザードの予測

- 地震発生の長期評価（内陸の地震、海溝型地震）
- 全国地震動予測地図
被害と結びつけたマップ
- 津波評価　精度向上、遡上予測
- 大地震後の地震活動評価
斜面崩壊等、地震に起因するハザード評価

地震活動の現状評価

・地震の評価（定例会、臨時会）
海外の地震の事例蓄積

データ公開

・基盤観測網のリアルタイム公開
個別研究で取得されたデータや研究成果の収集・保存・公開

工学分野で活用しやすい公開手法の改善

災害情報等の発信

災害現場での対応

被害想定

各種防災計画

防災対応の担い手が活用しやすい形、相互対話

建造物の耐震化

法令等による規制

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について（建議）」における基礎的研究が、地震本部の評価の基礎的な知見となる